

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択 がん看護CNS必修
担当教員			
◎石田和子、樺澤三奈子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 30時間			
	【担当教員】				
	【氏名】 ◎石田 和子 樺澤三奈子	【所属】 新潟県立看護大学 同上	【研究室】 317 318	【メールアドレス】 kazukoi@niigata-cn.ac.jp minako-k@niigata-cn.ac.jp	
	【本学の科目区分】 専門分野				
		【DP1】	【DP2】	【DP3】	【DP4】

研究	◎	○	○	○	○
CNS	◎	○	○	○	○
助産					

到達目標	1. がんにより苦痛を体験している人々および家族の特徴について述べることができる。 2. 質の高い看護を実践するための基盤となる概念と理論について説明することができる。
------	---

授業概要	がん看護・緩和ケア領域で主となる概念・理論（症状マネジメントモデル、ストレス・コーピング、喪失・悲嘆、危機、スピリチュアルペイン、セルフケア、QOL、家族）について、講義および国内外の文献抄読により理解するとともに、これらの理論を活用した事例検討を行い、がん看護・緩和ケアにおける理論活用の実際について修得する。
------	--

授業計画	1	授業内容 授業形態：講義 学修課題：がん看護における理論：必要性とその活用法 学修内容：がん看護において活用できる理論の概要 事前学修：学修課題に関する文献を探し、学修内容に該当する箇所を事前に読んでおく。 事後学修：授業資料と文献を活用して復習する。 備考：石田
	2	授業内容 授業形態：講義 学修課題：がん患者の症状マネジメントモデル（1） 学修内容：症状マネジメントに活用できる理論と事例への適用 事前学修：学修課題に関する文献を探し、学修内容に該当する箇所を事前に読んでおく。 事後学修：授業資料と文献を活用して復習する。 備考：石田
	3	授業内容 授業形態：講義 学修課題：がん患者の症状マネジメントモデル（2） 学修内容：症状マネジメントに活用できる理論と事例への適用 事前学修：学修課題に関する文献を探し、学修内容に該当する箇所を事前に読んでおく。 事後学修：授業資料と文献を活用して復習する。 備考：石田
	4	授業内容 授業形態：講義 学修課題：ストレスコーピング、喪失・悲嘆・危機・適応理論（1） 学修内容：がん看護におけるストレスコーピング、喪失・危機理論と事例への適用 事前学修：指定課題についての事前レポートを作成する。 事後学修：講義、ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。 備考：樺澤
	5	授業内容 授業形態：講義 学修課題：ストレスコーピング、喪失・悲嘆・危機・適応理論（2） 学修内容：がん看護におけるストレスコーピング、喪失・危機理論と事例への適用 事前学修：指定課題についての事前レポートを作成する。 事後学修：講義、ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。 備考：樺澤
	6	授業内容

7	<p>授業形態：講義  学修課題：スピリチュアルペインに関する理論（1）  学修内容：・村田理論と事例への適用  事前学修：・学修課題に関する文献を探し、学修内容に該当する箇所を事前に読んでおく。  事後学修：・授業資料と文献を活用して復習する。  備考：石田</p> <p>授業内容  授業形態：講義  学修課題：スピリチュアルペインに関する理論（2）  学修内容：・村田理論と事例への適用  事前学修：・学修課題に関する文献を探し、学修内容に該当する箇所を事前に読んでおく。  事後学修：・授業資料と文献を活用して復習する。  備考：石田</p>
8	<p>授業内容  授業形態：講義  学修課題：がん患者のセルフケアに関する理論（1）  学修内容：・エンパワメント、ヘルスプロモーション、自己効力理論などのがん患者のセルフケアに活用できる理論と事例への適用  事前学修：・指定課題についての事前レポートを作成する。  事後学修：・講義、ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：樺澤</p>
9	<p>授業内容  授業形態：講義  学修課題：がん患者のセルフケアに関する理論（2）  学修内容：・エンパワメント、ヘルスプロモーション、自己効力理論などのがん患者のセルフケアに活用できる理論と事例への適用  事前学修：・指定課題についての事前レポートを作成する。  事後学修：・講義、ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：樺澤</p>
10	<p>授業内容  授業形態：講義  学修課題：Quality of Life の概念と研究の動向  学修内容：・がん医療・看護における Quality of Life の概念と研究の動向  事前学修：・指定課題についての事前レポートを作成する。  事後学修：・講義、ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：樺澤</p>
11	<p>授業内容  授業形態：講義  学修課題：家族支援に関する理論（1）  学修内容：・がん患者の家族の体験の特徴、家族ケアに活用できる理論と事例への適用  事前学修：・指定課題についての事前レポートを作成する。  事後学修：・講義、ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：樺澤</p>
12	<p>授業内容  授業形態：講義  学修課題：家族支援に関する理論（2）  学修内容：・がん患者の家族の体験の特徴、家族ケアに活用できる理論と事例への適用  事前学修：・指定課題についての事前レポートを作成する。  事後学修：・講義、ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：樺澤</p>
13-15	<p>授業内容  授業形態：講義  学修課題：がん看護における理論の活用  学修内容：・既習の理論を用いた事例の分析とディスカッション  事前学修：・既習の理論を用いて事例の分析を行い、事前レポートを作成する。  事後学修：・ディスカッションをもとに文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：石田</p>
16	<p>授業内容  授業形態：演習  学修課題：理論を活用した事例検討（1）  学修内容：・がん患者に適応できる理論活用についてディスカッション  事前学修：・指定課題についての事前レポートを作成する。  事後学修：・ディスカッションをもとに、文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：石田 樺澤</p>
17	<p>授業内容  授業形態：演習  学修課題：理論を活用した事例検討（2）  学修内容：・がん患者に適応できる理論活用についてディスカッション  事前学修：・指定課題についての事前レポートを作成する。  事後学修：・ディスカッションをもとに、文献を活用して事前レポートを修正する。  備考：石田 樺澤</p>
事前・事後学習	授業計画参照
評価方法、評価基準	到達目標に対して、授業参加状況 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 50%により総合的に評価する。
テキスト	最新の文献を使用するため、現時点では指定せず授業内で案内する。
参考図書・資料等	必要時提示する。
受講、課題、資料配布等のルール	授業計画の詳細については、どこかで通知する。 プレゼンテーションを行う学生は、授業前に人数分の資料をコピーして持参する

教員からのメッセージ	がん看護学の基盤となる理論や概念を学ぶ本科目では、疑問を自ら掘り下げる主体的な自己学修を期待する。
オフィスアワー	事前にメールで連絡する。